

# 経済情勢

## (8月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに個人消費が底堅く推移しているものの、輸出の伸び悩みなどを背景に生産が一進一退となるなど、景気は概ね横ばいとなっている。

### (全国)

個人消費	一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は前年を上回った
設備投資	前年を上回る計画となっている
公共投資	前年を上回った
輸出	輸出金額は前年を下回った
生産動向	一進一退となっている
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、良好である

### (中国)

個人消費	一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している
住宅投資	新設住宅着工戸数は前年を上回った
公共投資	前年を上回った
輸出	輸出金額は前年を下回った
生産動向	一進一退となっている
雇用情勢	求人倍率が高水準で推移するなど、良好である

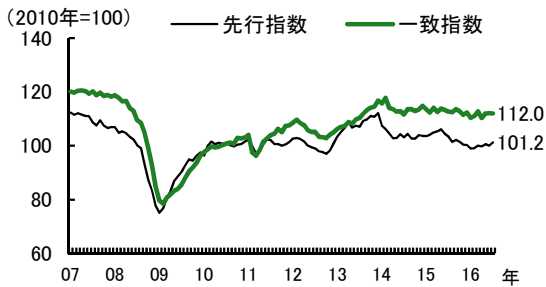
## 1. 景気動向指数(8月)

(全国) CI 一致指数は3カ月ぶりに下降している。

(中国) CI 一致指数は3カ月連続で上昇している。

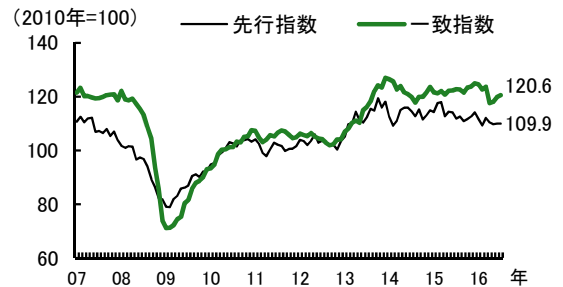
(全国)

- ・ CI 一致指数は112.0(前月差▲0.1ポイント)。3カ月ぶりに下降。
- ・ CI 先行指数は101.2(同+1.2ポイント)。2カ月ぶりに上昇。



(中国)

- ・ CI 一致指数は120.6(前月差+0.7ポイント)。3カ月連続で上昇。
- ・ CI 先行指数は109.9(同±0.0ポイント)。前月と同水準。



指標名	寄与度
CI 一致指数(前月差)	▲ 0.1
耐久消費財出荷指数	▲ 0.52
商業販売額(小売業)	▲ 0.23
有効求人倍率(除学卒)	▲ 0.18
投資財出荷指数(除輸送機械)	▲ 0.16
所定外労働時間指数(調査産業計)	0.01
営業利益(全産業)	0.07
鉱工業生産財出荷指数	0.07
鉱工業生産指数	0.24
中小企業出荷指数(製造業)	0.26
商業販売額(卸売業)	0.34

指標名	寄与度
CI 一致指数(前月差)	0.7
最終需要財出荷指数	0.41
鉱工業生産指数	0.32
電力利用率	0.27
通関輸入額	0.25
全産業業況判断DI	0.05
所定外労働時間(製造業)	0.02
有効求人倍率	▲ 0.06
電力需要量	▲ 0.21
生産財出荷指数	▲ 0.32

指標名	寄与度
CI 先行指数(前月差)	1.2
鉱工業生産財在庫率指数(逆)	0.73
中小企業売上げ見通しDI	0.58
消費者態度指数	0.39
最終需要財在庫率指数(逆)	0.19
東証株価指数	0.01
日経商品指数(42種総合)	▲ 0.11
マネーストック(M2)	▲ 0.11
新規求人数(除学卒)	▲ 0.20
新設住宅着工床面積	▲ 0.32
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

指標名	寄与度
CI 先行指数(前月差)	0.0
生産財生産指数	0.55
新規求人数	0.52
鉱工業製品在庫率指数(逆)	0.38
消費者態度指数	0.20
建築物着工床面積	0.07
銀行貸出残高(前年比)	0.06
中小企業業況判断DI次期見通し	▲ 0.04
新設住宅着工戸数	▲ 0.82
実質百貨店販売額(前年比)	▲ 0.87

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することには適切ではない。

4. 中国地域の景気動向指数は、2014年1月値公表時から新景気動向指数を適用(エネルギー地域経済レポートNo.477(2014.4)の解説参照)

資料: 全国は内閣府「景気動向指数(速報)」, 中国は当研究所で作成

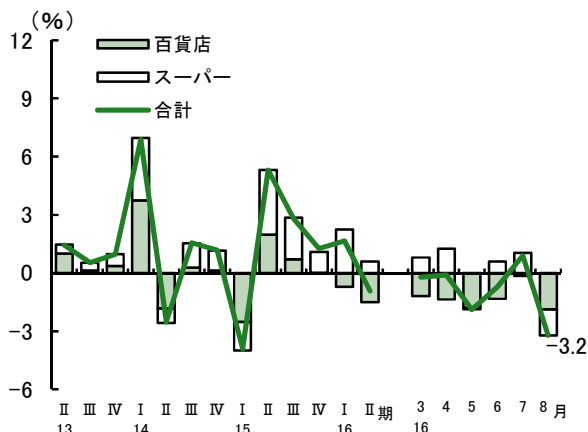
## 2. 個人消費 (8月)

個人消費は全国、中国ともに一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。

### ● 百貨店・スーパー販売額 [対前年伸び率]

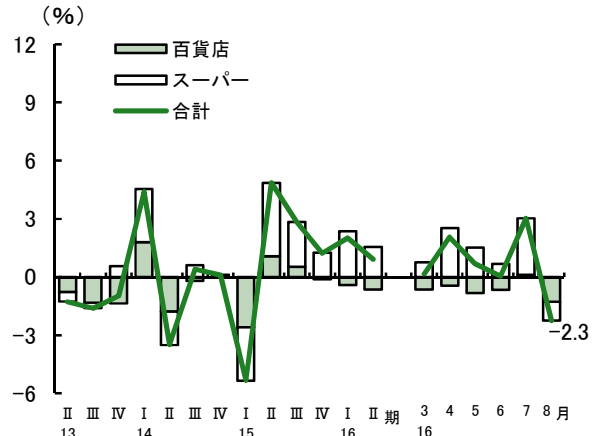
(全国)

- ・百貨店・スーパー販売額は前年に比べて休日数が少なかったこともあり、2カ月ぶりに減少（前年同月比▲3.2%）。
- ・スーパー（同▲1.9%）は衣料品や飲食料品等が減少。
- ・百貨店（同▲6.3%）は衣料品や飲食料品等が減少。



(中国)

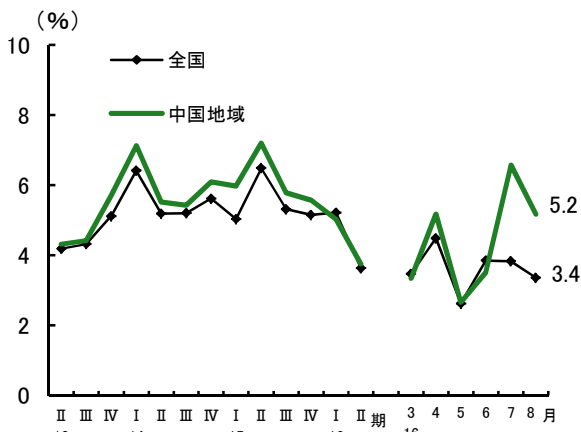
- ・百貨店・スーパー販売額は9カ月ぶりに減少（前年同月比▲2.3%）。
- ・スーパー（同▲1.3%）は飲食料品が前年並みとなったものの、衣料品等が減少。
- ・百貨店（同▲5.1%）は衣料品等が減少。



注：1. 百貨店、スーパーは、販売額の合計の対前年伸び率に対する業態別寄与度 2. 全店舗ベース 3. 最新月は速報値  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」

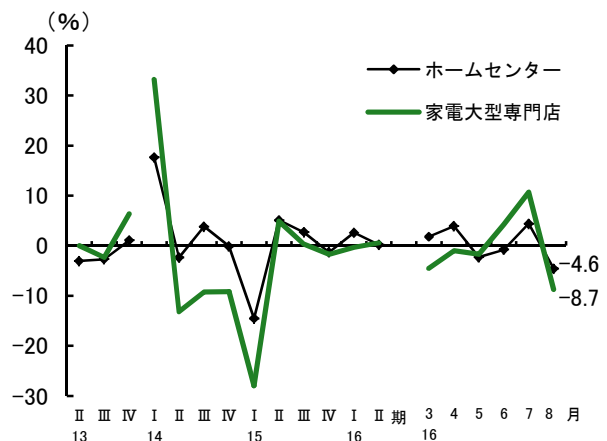
### ● コンビニ販売額 [対前年伸び率]

- (全国) 店舗増（前年同月比+2.4%）などから、42カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.4%）。
- (中国) 全国と同様に店舗増（同+3.5%）などから、42カ月連続で前年比プラス（同+5.2%）。



### ● ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

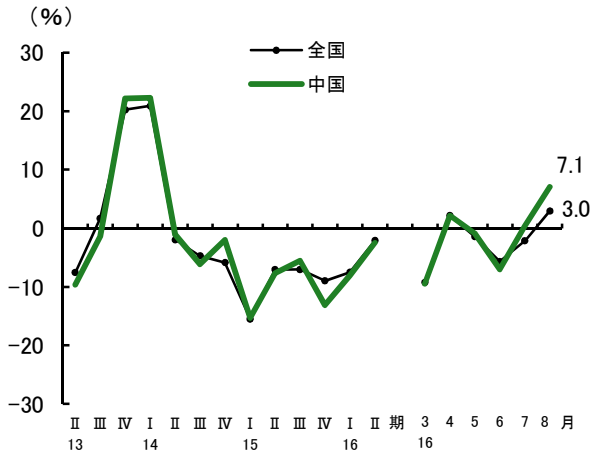
- (中国) ホームセンター販売額は2カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲4.6%）。
- 家電大型専門店販売額は3カ月ぶりに前年比マイナス（同▲8.7%）。



注：1. 全店舗ベース 2. 最新月は速報値 3. ホームセンター・家電大型専門店販売額は、2014年1月より調査対象等が変更されたため、それ以前の数値とは不連続が生じている。  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」、中国経済産業局「中国地域百貨店・スーパー販売動向」「中国地域専門量販店販売動向」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

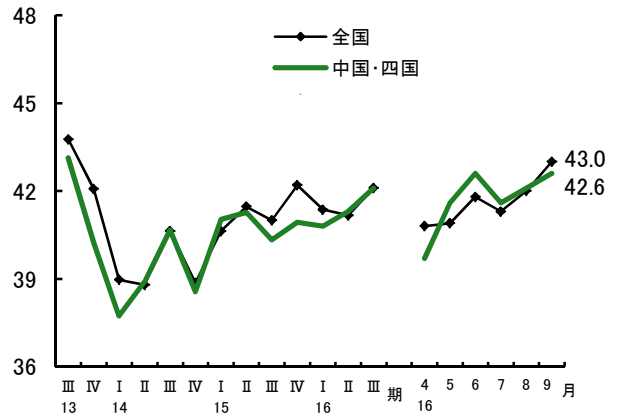
(全国) 軽乗用車, 小型乗用車が減少したものの, 普通乗用車が増加したことから, 4カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+3.0%)。  
 (中国) 普通乗用車, 小型乗用車, 軽乗用車のすべてが増加したことから, 2カ月連続で前年比プラス(同+7.1%)。



資料: 中国運輸局「新車登録・届出状況」, (一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費者態度指数(9月)

(全国) 消費者態度指数は43.0と前月から1.0ポイント上昇。「雇用環境」「暮らし向き」など4指標すべてが上昇した。  
 (中国) 消費者態度指数は42.6(前月差+0.5ポイント)。



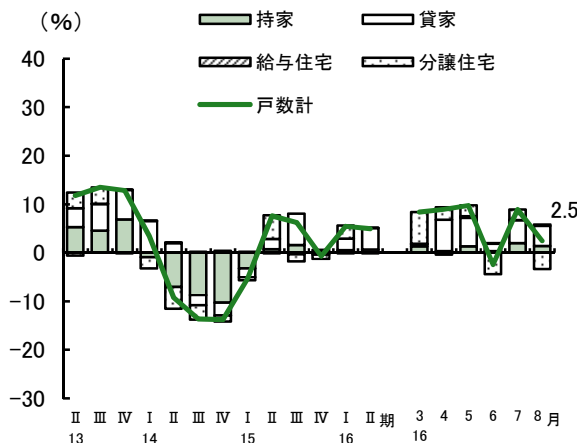
注: 1. 消費者態度指数は二人以上の世帯の数値  
 2. 全国は季節調整値, 中国・四国は原数値  
 3. 四半期は月次の平均値  
 資料: 内閣府「消費動向調査結果」

3. 住宅投資(8月)

新設住宅着工戸数は全国, 中国ともに前年を上回った。

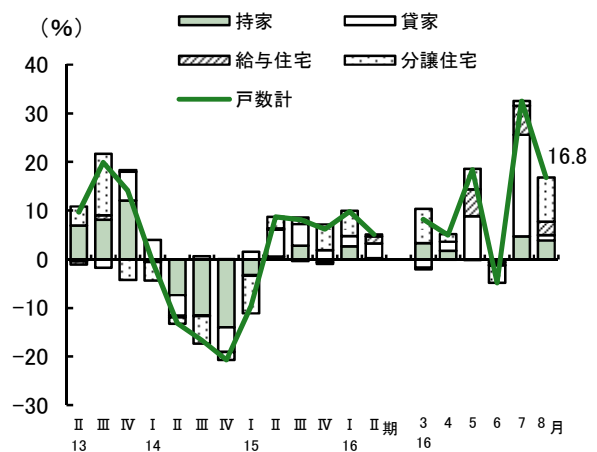
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 分譲住宅は減少したものの, 貸家, 持家が増加したことから, 2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.5%)。



注: 持家, 貸家, 給与住宅, 分譲住宅は, 新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度  
 資料: 国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 分譲住宅, 持家, 給与住宅, 貸家のすべてが増加したことから, 2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+16.8%)。



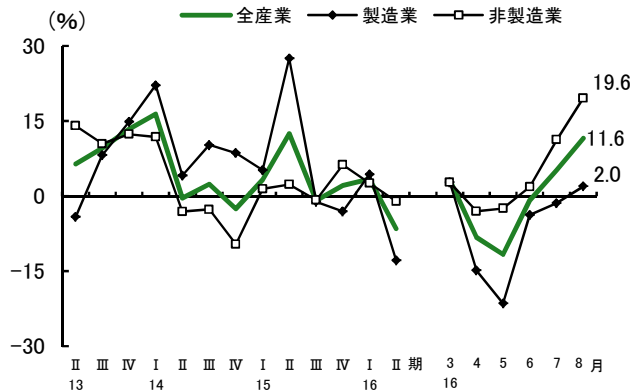
#### 4. 設備投資・公共投資 (8月)

2016年度の設備投資は、全国・中国ともに前年を上回る計画となっている。  
公共投資は全国、中国ともに前年を上回った。

##### ● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 2 カ月連続で前年を上回った (前年同月比 +11.6%)。
- ・ 製造業 (同+2.0%) は食品製造業などが増加。
- ・ 非製造業 (同+19.6%) は運輸業・郵便業などが増加。

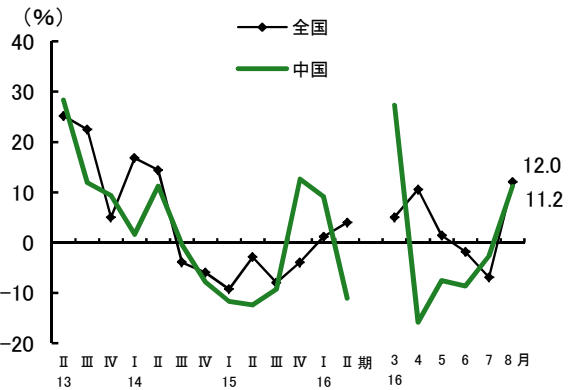


注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

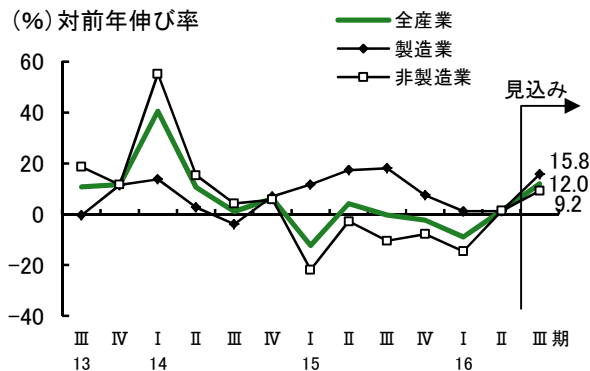
- (全国) 国や都道府県からの発注が増加したことなどから、3 カ月ぶりに前年比プラス (前年同月比 +12.0%)。
- (中国) 県からの発注が増加したことなどから、5 カ月ぶりに前年比プラス (同+11.2%)。



##### ● 法人企業景気予測調査 (2016年7-9月調査)

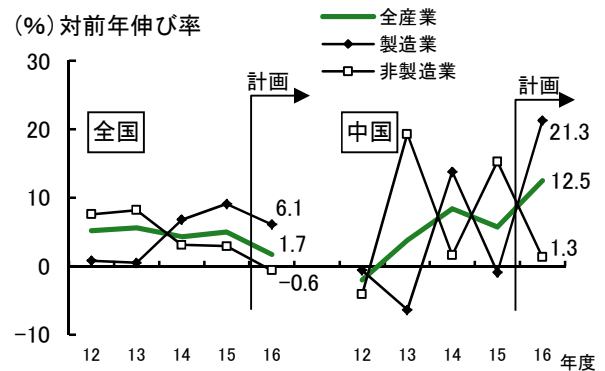
(全国)

- ・ 7-9 月期の設備投資額は、2 四半期連続で前年比プラスとなる見込み (前年同期比+12.0%)。
- ・ 製造業は前年を上回る (同+15.8%) 見込み。
- ・ 非製造業は前年を上回る (同+9.2%) 見込み。



##### ● 企業短期経済観測調査 (2016年9月調査)

- (全国) 16年度の設備投資は5年連続で前年度を上回る計画 (前年度比+1.7%)。製造業はプラス、非製造業はマイナスとなる見通し。
- (中国) 16年度の設備投資は4年連続で前年度を上回る計画 (同+12.5%)。製造業、非製造業ともにプラスとなる見通し。



注：法人企業景気予測調査、企業短期経済観測調査 (以下、短観) は四半期ごとに公表されている。

資料：内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」

日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

## 5. 輸出・輸入(8月)

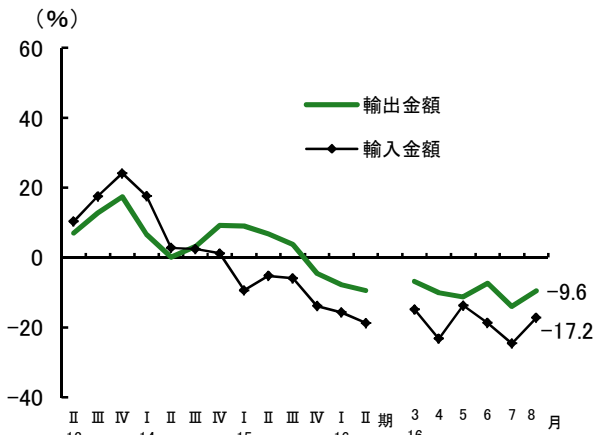
輸出金額は、全国、中国ともに円高の影響を受けて、鉄鋼や有機化合物などが減少したことから、前年を下回った。

輸入金額は、全国、中国ともに原油などが減少したことから、前年を下回った。

### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

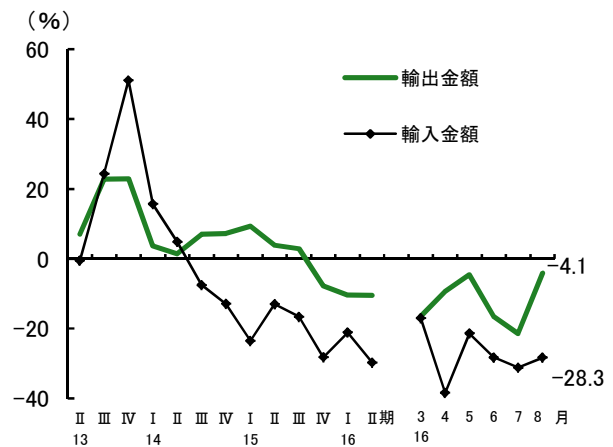
- 輸出金額は11カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲9.6%)。自動車、鉄鋼や有機化合物などが減少した。
- 輸入金額は原油や液化天然ガスなどが減少したことから、20カ月連続で前年比マイナス(同▲17.2%)。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確認；輸入速報(9桁)  
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

(中国)

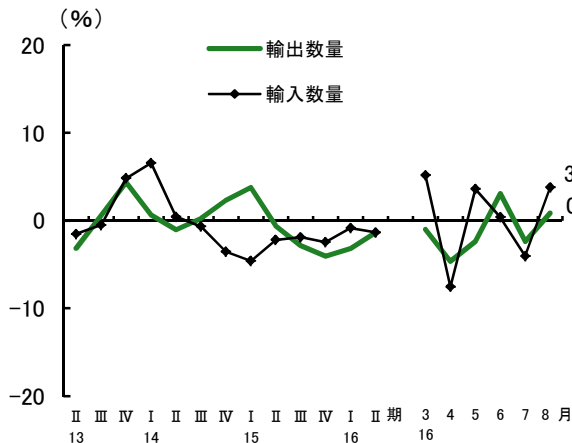
- 輸出金額は12カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲4.1%)。自動車や半導体等製造装置が増加したものの、鉄鋼や有機化合物などが減少した。
- 輸入金額は原油などが減少したことから、16カ月連続で前年比マイナス(同▲28.3%)。



### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

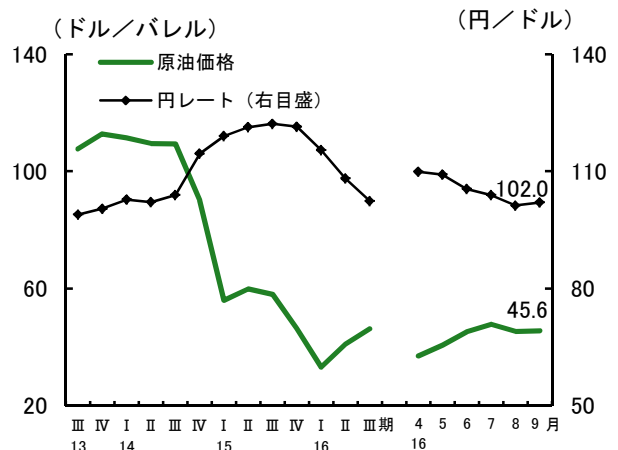
- 輸出数量は前年比プラス(前年同月比+0.8%)。
- 輸入数量は前年比プラス(同+3.8%)。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2010年=100とした指数 2. 輸出確認；輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格、ただし最新月は財務省「貿易統計」旬間速報より算出した参考値 4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの期中平均値  
資料：財務省「貿易統計」

### ● 原油価格・円レート

- 原油価格は45.6ドル/バレルと2カ月ぶりに上昇。
- 円レートは102.0円/ドルと円高基調が一服している。



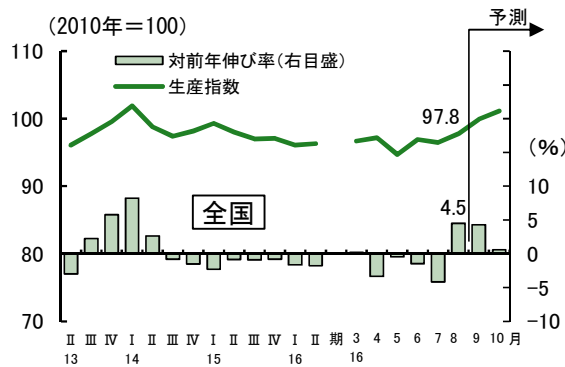
## 6. 生産動向 (8月)

生産は全国、中国ともに一進一退となっている。

### ● 生産指数 (総合)

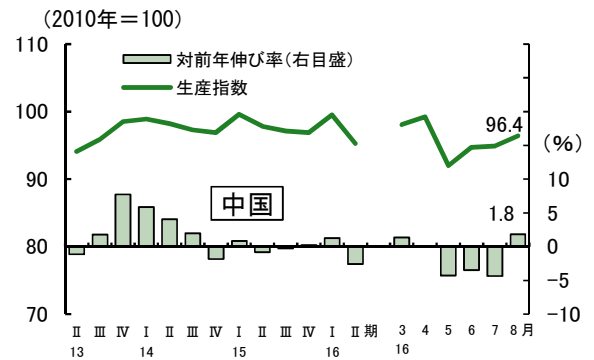
#### (全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、自動車などが低下したものの、電機機械や化学などが上昇したことから97.8 (前月比+1.3%) と2カ月ぶりに前月比プラス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+4.5%と5カ月ぶりに前年を上回った。

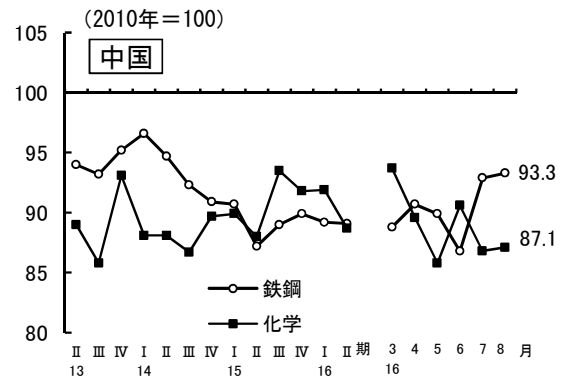
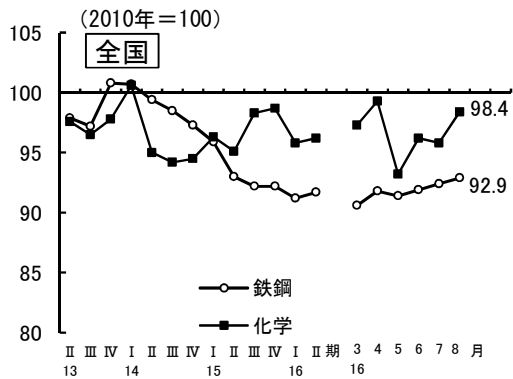


#### (中国)

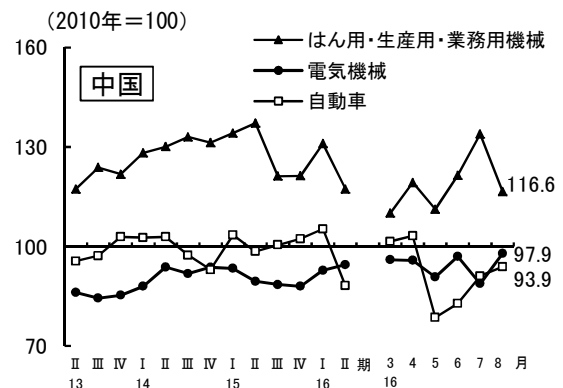
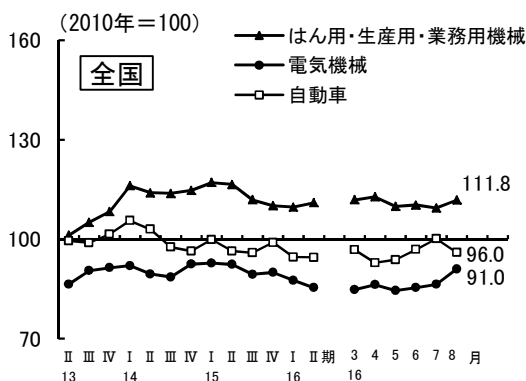
- 生産指数 (季節調整済) は、電気機械や自動車などが上昇したことから96.4 (前月比+1.6%) と3カ月連続で前月比プラス。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+1.8%と4カ月ぶりに前年を上回った。



### ● 生産指数 (素材)



### ● 生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値  
 5. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (2010年基準における電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)  
 6. 「自動車」は全国では「特掲：乗用車・バス・トラック」、中国では「自動車工業 (乗用車・トラック・主要部品)」  
 資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」



## 7. 雇用情勢(8月)

雇用情勢は全国、中国ともに求人倍率が高水準で推移するなど良好である。

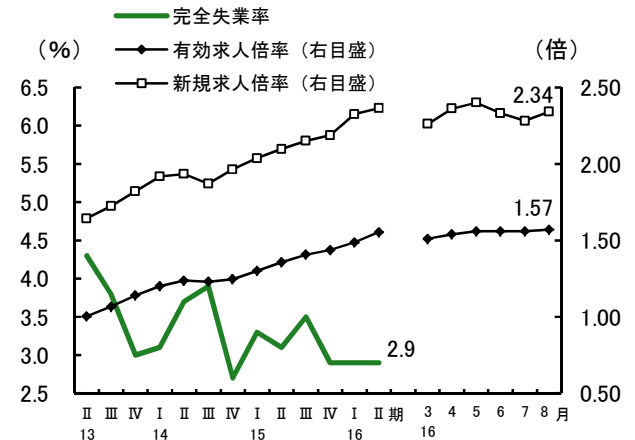
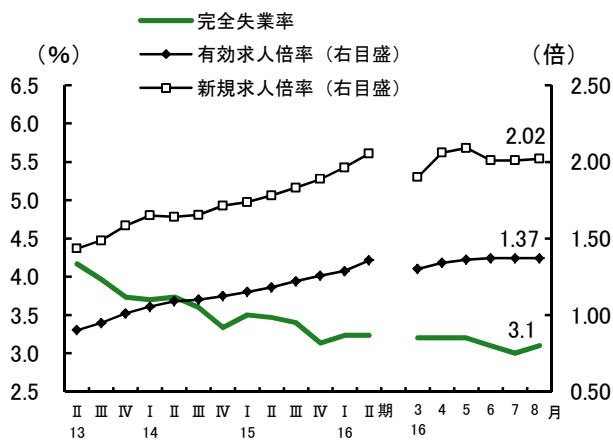
### ● 完全失業率, 有効求人倍率, 新規求人倍率

(全国)

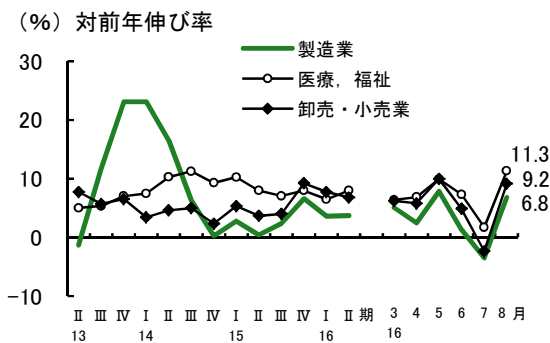
- 完全失業率は3.1%と前月から0.1ポイント悪化。
- 有効求人倍率は1.37倍と前月と同水準。
- 新規求人倍率は2.02倍と前月から0.01ポイント上昇。

(中国)

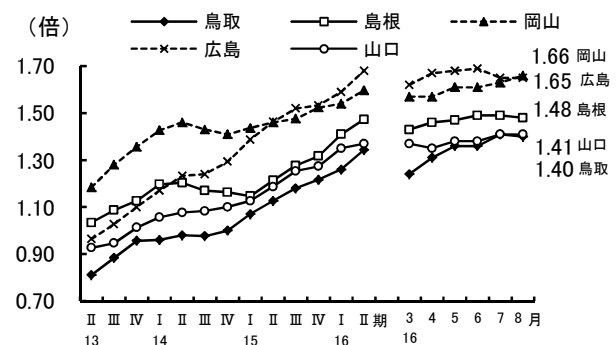
- 有効求人倍率は1.57倍と前月から0.01ポイント上昇。
- 新規求人倍率は2.34倍と前月から0.06ポイント上昇。



主要産業における新規求人数の推移(全国)



有効求人倍率の推移(中国5県)

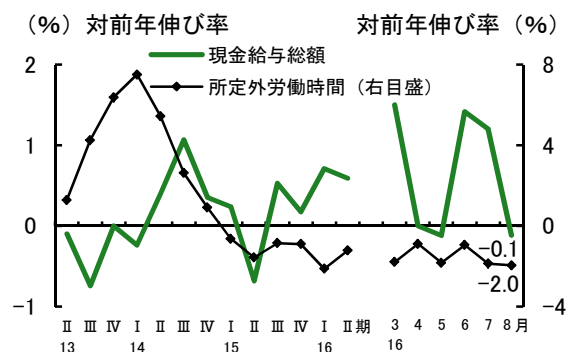


注: 完全失業率の月次, 有効求人倍率, 新規求人倍率は季節調整値, 完全失業率の四半期は原数値  
資料: 総務省「労働力調査報告」, 厚生労働省「職業安定業務統計」

### ● 現金給与総額, 所定外労働時間

(全国)

- 現金給与総額は3カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲0.1%)。
- 所定外労働時間は19カ月連続で前年比マイナス(同▲2.0%)。製造業は9カ月連続で前年比マイナス(同▲3.2%)。



注: 1. 事業所規模5人以上の指数(2010年=100)の対前年伸び率 2. 最新月(速報値)  
資料: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」